

令和2年度

経済福祉常任委員会会議録

令和2年10月9日

福島町議会

会議録の作成にあたっては、誤りのないよう留意しておりますが、時間の関係上、原稿校正は初校よりできなく、誤字、脱字がありましたら、深くお詫び申し上げます。

まことに恐れ入りますが、ご了承のうえご判読いただきたくお願いいたします。

福島町議会議長 溝 部 幸 基

令和2年度

経済福祉常任委員会

令和2年10月9日（金曜日）第1号

◎案件

(1) 調査事件6 今後の吉岡温泉の方向性について

◎出席委員（6名）

委員長	佐藤孝男	副委員長	藤山 大
委員	平沼昌平	委員	小鹿昭義
委員	平野隆雄	委員	溝部幸基

◎欠席委員（0名）

◎委員外議員（0名）

◎出席説明員

町長	鳴海清春	副町長	工藤 泰
福祉課長	鍋谷浩行	福祉課長補佐	吉澤裕治

◎職務のため議場に参加した議会事務局職員

議会事務局長	阿部 憲一	議会事務局議事係長	福井理央
議会事務局主査	中島和俊		

○委員長(佐藤孝男)

皆様、おはようございます。

ただいまから、経済福祉常任委員会を開会いたします。

本日の調査事件は、調査事件6 今後の吉岡温泉の方向性についてであり、資料等は皆様のお手元に配付のとおりでございます。ご了承願います。

申し出により、町長の挨拶を行います。

鳴海町長。

○町長(鳴海清春)

改めまして、おはようございます。

経済福祉常任委員会の開催にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

委員の皆様には、何かとお忙しい中、ご出席をいただき誠にありがとうございます。

本日の調査事件は、今後の吉岡温泉の方向性についてとなっております。

吉岡温泉につきましては、平成6年11月の建設となっており、築26年余りが経過してございますが、ここ数年の施設の状況を見ると、外壁や屋根の傷みがあり、雨漏りなど毎年のように修繕費が嵩んでおります。また、今後は配管等の設備更新も想定されているところであります。

町では、このような状況を踏まえ、議会と平成25年度から議論を重ねてきており、私が就任する前の平成26年9月開催の経済福祉常任委員会において、一定程度の意見集約がなされたと感じているところでございます。

しかし、私が平成27年に町長に就任した時点において、特に引き継ぎ事項もなく、また、私自身が当時の町の提案に少し違和感を覚えており、一時計画を中断させていただき、今日に至っているところでございます。一方、町長就任以来の温泉の現状の状況を見ますと、私が福祉担当職員時代に考えていたものより相当老朽化が進んでおり、度々、利用者に不便を来すなどご迷惑をかけており、管理運営に苦慮している状況が見て取れます。このようなことから、この度、早期に新たな事業構想をまとめる必要があるとの思いに至り、今般、所管調査をお願いするものでございます。

なお、町の基本的な方向性の考え方として、平成26年9月の当委員会の意見を尊重し、新築による建て替えを基本に作業を加速させたいと考えてございますので、予めご理解をお願いするものでございます。

なお、調査事件に関して、詳しい内容は担当課長より説明いたしますので、よろしくご審議をお願いしたいと思っております。

以上で、経済福祉常任委員会の開催にあたってのご挨拶とさせていただきます。

本日は、どうぞよろしく願いいたします。

○委員長(佐藤孝男)

鳴海町長の挨拶を終わります。

これより調査事件に入りますが、まず、調査の方法について説明いたします。

まず、資料の説明を受け、不明な点や疑問な点についての説明に対する質疑を行います。質疑が終了した段階で、調査内容について説明員と意見交換を行い、意見交換が終了後、説明員には退席していただき、休憩をとり、休憩中に調査の論点・争点の整理を行い、概ねその整理した事項に基づき、委員間の意見交換や討議を行います。その後、最終的な委員会意見の取りまとめをし、議長に提出することになります。

以上、調査の方法等を説明しましたが、これにご異議ございませんか。

(「異議なし」という声あり)

○委員長(佐藤孝男)

ご異議なしと認め、そのように進めてまいります。

次に、調査事件6の調査内容について、簡単にご説明いたします。

吉岡温泉については、多額の設備改修等を含めたランニングコストの面や利用者の減少などから、これまでも議会議論をしてきたところです。このような中で、今回、町から今後の吉岡温泉の方向性が示されましたので、提出された資料に基づき調査するものです。

それでは、調査事件6 今後の吉岡温泉の方向性についてを議題といたします。

説明員から資料の説明を求めます。

鍋谷福祉課長。

○福祉課長（鍋谷浩行）

それでは、資料の1ページをお開き願います。

調査事件6 今後の吉岡温泉の方向性についてをご説明いたします。

1、吉岡温泉の現状について。

現施設は、平成6年に約5億円で建設され築26年が経過し、内外装及び設備等、施設全体の老朽化が進んでおります。

また、屋根や壁などからの雨漏りが頻繁に発生しており、ここ10年程は毎年のように修繕費の予算を割いて対策を講じておりますが、根本的な原因の究明には至らず利用者に不便をかけるなど、管理運営に苦慮している状況にあります。

その下の表は、過去5年間の修繕費・改修費を掲載しておりますが、平成27年度は666万9,996円、平成28年度は827万3,966円、平成29年度は425万7,565円、平成30年度は1,353万5,200円、令和元年度は750万3,122円となっております。

なお、施設建設当時は、温泉施設を健康保養施設として建てる市町村が多くあり、当町においても有利な財源確保を目的に、名称を「福島町温泉健康保養センター（吉岡温泉ゆとらぎ館）」として建設した経緯があります。そのことにより有利な財源が充当されましたが、反面、人口規模に比べて施設の広さ・設備等が必要以上に過大となっております。

また、利用状況も時代の変化とともに変わってきており、施設開設当初は1日当たりの平均利用者数が471人だったものが、現状ではお盆等の帰省時期を除くと1日当たり200人を下回る日もあり、令和元年度の1日当たりの平均利用者数は210人となっております。

下の表は、過去5年間の利用者数となりますが、平成27年度が6万5,892人、平成28年度が6万7,491人、平成29年度が6万5,865人、平成30年度が6万5,120人、令和元年度は6万4,027人となっております。令和元年度は、前年に比べて1,093人減少しておりますが、減少の理由としては、浴室タイルの目地修繕と湯管等の清掃を行うため7日間ほど休館したことによるものと考えております。

次のページをお願いします。

2、当委員会の経過及び意見について。

吉岡温泉については、これまでも改修等について経済福祉常任委員会で議論していただいておりますが、直近では平成26年9月4日開催の委員会において、新築及び改修の議論がなされ、提出された報告書では「新築の方向性で進める」との意見集約がされております。ただし、「これは新築にGOサインを出したわけではなく、新築に対して先ずは「一歩踏み出した」と考えるべきだ」とも付されております。しかし、その後、新築に向けた協議及び作業が進められた経緯はなく、現在に至っております。

3、今後の基本的な方向性について。

町では、これまでの議会における議論の経過を真摯に受け止め、吉岡温泉施設建設議論の原点である平成26年度の委員会意見を尊重し、現状の吉岡温泉施設の雨漏りの状況や施設・設備等の老朽化の状況から、現施設を改修して維持することは、将来的な維持費が高むことが想定されることから困難性があるとの認識の下、新たに建て替える方向で今後、整備計画を推進したいと考えております。

なお、建て替えにあたっては、現状の施設に比べ、よりコンパクトな施設とし、建設コスト及び管理運営コストを抑えることを基本的な考え方に据えつつ、利用者満足度を優先した施設整備を目指します。

具体的には、(1)として、全体的な建物の面積は極力コンパクトにする。(2)として、設備の選定にあたっては、自然エネルギーの活用や自動化を図るなどして、人件費を含めたランニングコストを抑える。(3)として、建設にあたっては木造をベースに考える。(4)として、熱源方式については、長期的な視点で経済効果を優先する。(5)として、現温泉施設の良いところ（露天風呂、サウナ等）は、形態を変えることなく極力引き継ぐこととする。(6)として、売店など指定管理制度が有効に機能するような仕組みを加えるの6点を基本としています。

4、今後のスケジュール等について。

新たな吉岡温泉の建設に係るスケジュールについては、第5次福島町総合計画（後期実施計画）並びに、今後策定が見込まれる第6次の総合計画を見据え、他の大型事業とのバランスを考慮しながら、財政推計の中で最終判断することになりますが、現状の施設の状況を考えた場合、早期に構想をまとめ上げる必要があるとの判断の下、今年の総合計画のローリング作業において、構想に係る予算を確保し、実施に向けた作業を加速してまいりたいと考えております。

次のページをお願いします。

建設までの行動スケジュール（案）になります。

まず、令和2年10月の経済福祉常任委員会による所管調査。これは本日の委員会となります。その後、12月の定例会に総合計画の変更議案を提案し、総合計画に温泉整備計画を登載。令和3年度に建設構想の作成を業者に発注するとともに、内容について当委員会で審議していただきます。その後、令和4年に実施設計を業者に委託、内容について当委員会で審議していただき、令和5年度には吉岡温泉の建設に着手できればと考えております。

4ページをお願いします。

参考資料として、①年度別利用者集計表から、⑤源泉の揚湯特性を添付しております。

①年度別利用者集計表については、過去5年間の利用者数と利用料、入湯税、管理費を掲載しております。また、比較のため開設時の平成6年度と、開設から5年後の平成10年度、その10年後の平成20年度の数値も掲載しております。

その下の②年度別燃料費内訳は、過去5年間の燃料費を掲載しております。

次のページになります。

③年度別施設修繕費内訳は、過去5年間の修繕費と修繕内容について記載しております。

次のページになります。

④年度別施設改修費内訳になります。過去5年間の改修費と改修内容について、記載しております。

その下、⑤源泉の揚湯特性になります。源泉については、掘削時の平成5年と平成24年に業者による調査を行っております。その後、平成27年度の水中ポンプ入替時に計測機器を設置し、源泉の状況について記録しております。

なお、平成24年度の調査では、揚湯特性として「揚湯水位が掘削時の平成5年と比べ35メートルほど低下しており、揚湯能力の低下がうかがえる」との報告を受けておりますが、平成28年10月から施設利用形態を見直した結果、源泉ポンプ運転時間が短縮されたことで、令和元年8月時点では水位・温度揚湯量は安定しております。

以上で、調査事件6 今後の吉岡温泉の方向性についての説明を終わります。

ご審議のほどよろしく願いいたします。

○**委員長（佐藤孝男）**

内容の説明が終わりましたので、質疑を行ないます。

小鹿委員。

○**委員（小鹿昭義）**

この温泉の作業員というんですか、従業員というんですか、何人ぐらいいるんでしょうか。

○**委員長（佐藤孝男）**

鍋谷福祉課長。

○**福祉課長（鍋谷浩行）**

現在、工房の方で雇われている方が8名おります。

○**委員長（佐藤孝男）**

小鹿委員。

○**委員（小鹿昭義）**

この8名の1カ月の人件費はどのぐらいですか。

○**委員長（佐藤孝男）**

鍋谷福祉課長。

○**福祉課長（鍋谷浩行）**

1カ月単位ではこちらの方に報告は上がってきていないんですけれども、令和元年度ですが、年間を通

して1,308万3,316円ということになっております。

○委員長（佐藤孝男）

小鹿委員。

○委員（小鹿昭義）

この8名は2部制ですか。

○委員長（佐藤孝男）

鍋谷福祉課長。

○福祉課長（鍋谷浩行）

受付部門の女の方と、あとボイラー等の管理されている方で別なんですけど、どちらも3部制です。午前中、午後、あと夜間の清掃の部分もありますので、3部制になっています。

○委員長（佐藤孝男）

ほかに。

藤山委員。

○委員（藤山大）

3ページのスケジュールのところ、令和5年5月に吉岡温泉建設とはなっているんですが、今後、例えばですけれども、現状の吉岡温泉あるじゃないですか。吉岡温泉で修繕、改修なり、何らかのある程度もうやらなきゃならないものは必ずやる方向だと思うんですけども、それに向けて、もし不用なものと言ったらあれですけれども、その辺の考え方はどう思っているのか。その辺をお伺いします。

○委員長（佐藤孝男）

藤山委員、今の質問は意見交換でやってもらえれば。今、質疑です。

藤山委員。

○委員（藤山大）

吉岡温泉を令和5年5月に建設予定と。この場所の選定はどのようになっているのか。その辺をお伺いします。

○委員長（佐藤孝男）

鍋谷福祉課長。

○福祉課長（鍋谷浩行）

これから構想を立てることになりますので、具体的な話にはならないんですが、現状の場所の横の方、元ドウデンがあった所が空き地になっておりますので、源泉の位置とかを考えると、そちらの方になるのかなとは考えています。

○委員長（佐藤孝男）

平沼委員。

○委員（平沼昌平）

1ページからお伺いします。1の吉岡温泉の現状から、下に3行目で、屋根や壁などからの雨漏りが頻繁に発生していると。これは平成6年の段階ではないにしても、何年頃からこのような事案が発生しているのを確認しているか、まずお聞かせください。

○委員長（佐藤孝男）

鍋谷福祉課長。

○福祉課長（鍋谷浩行）

いつ頃からというのは資料として持ってきていないんですけども、平成10年頃から雨漏りの修繕というのが発生しておりますので、その頃からなのかなと思います。それで、平成17年に大規模な改修を一度行っておりますので、その後もやはり止まらないで雨漏りが続いているというのが現状でございます。

○委員長（佐藤孝男）

平沼委員。

○委員（平沼昌平）

平成10年から確認して、平成17年度に大規模な改修をしているということですね。それで、その下の5行目になるんですけども、根本的な原因の究明に至らずとなっておりますが、その原因の究明という言葉を使っていますけれども、これは町内の業者を頼んでいるのか、それとも専門的な業者を頼んだのか。

その辺の確認をお願いします。

○委員長（佐藤孝男）

鍋谷福祉課長。

○福祉課長（鍋谷浩行）

雨漏りの度に町内業者等に入らせていただいていますけれども、一番最近では平成30年に函館の業者の方に来ていただいて、屋根に上って現状を見ていただいて、原因等の考えられることはないかということで調査しております。

○委員長（佐藤孝男）

平沼委員。

○委員（平沼昌平）

同じ1ページなんですけれども、真ん中辺で、この利用状況のデータの出し方なんですけど、年度別利用内訳の中で、平成27年、それから平成6年とか、つまり開所当時ですよ。こういうデータの出し方ってどうなのかなと感じるんですね。例えば開所当時の平成6年の場合と、それから今現在の場合と、これは何を意味して、この数字を出しているのか。例えば1年間均して、この数字を基にしてデータを出して、そのデータから反映されるものって何なのかなという気がするんですよ。こういうデータの出し方って、私は平均値を取るんだったら最大値と最小値は除いて計算するべきで、平面的なものでないのかなと思うんですけれども、その考えについてお聞かせください。

○委員長（佐藤孝男）

鍋谷福祉課長。

○福祉課長（鍋谷浩行）

私の方でマックスというか、現状、5年間こういう形で使われていますという人数を出したいと思いました。それで、あの温泉の規模から言ったときに、当初何人入っていたかなという話の中で、比較になるかなと思わせて令和6年。それで、後ろの参考資料の方には、さらに平成10年、平成20年、ここにも書いていますけれども、利用状況の時代の変化という形の中で数字の動きを見ていただきたいなと思って提示しております。

○委員長（佐藤孝男）

平沼委員。

○委員（平沼昌平）

次のページなんですけれども、今後の基本的な方向性についてということなんですけど、これはやっぱり委員会意見も反映させていただいて、新たに建替える方向で、今、検討するよということなんですけれども、コンパクトな施設、それから建設コストを抑える、管理運営費を抑えるということで、利用者の満足度を優先していくということになれば、例えばこの令和5年に完成させますよと言ったときに、これら利用者の満足度をどの時点からモニタリングしていくのかということをお聞きしたいんですけれども。

○委員長（佐藤孝男）

鍋谷福祉課長。

○福祉課長（鍋谷浩行）

令和5年度に着工できればなということで、来年、基本構想ということになりますので、その中で満足度を取っていききたいなどは考えております。

○委員長（佐藤孝男）

平沼委員。

○委員（平沼昌平）

それは、どういう手法でやるのか、あとでお伺いしたいなと思います。

それから、(6)の方に売店とありますけれども、イメージとして、どういうイメージの売店なんでしょう。

○委員長（佐藤孝男）

鍋谷福祉課長。

○福祉課長（鍋谷浩行）

具体的なイメージはまだはっきりとはないんですけれども、今の温泉は飲食物等出しておりませんので、

そういうのが出せば良いのかなとは思いますが、工房の方等もありますので、それが出来るかどうかはまたちょっと。現在、カウンターの所にアイス等、その他にちょっとスナック菓子を置いている状態ですから、あれよりは買いやすいとか、見やすいような形をつくりたいなと思っています。

○委員長（佐藤孝男）

平沼委員。

○委員（平沼昌平）

4ページなんですけれども、4ページの年度別利用者集計表の中に利用料とあります。この利用料は入湯税を含んだ利用料なのか、この隣に書いている入湯税は弾いたものの本当の利用料なものなのか。その辺の数字の意味を教えてくださいたいと思います。

○委員長（佐藤孝男）

鍋谷福祉課長。

○福祉課長（鍋谷浩行）

これは別々になります。利用料は利用料、入湯税は入湯税という計になりますので、これを足したものが収入という形になっております。

○委員長（佐藤孝男）

平沼委員。

○委員（平沼昌平）

5ページになります。年度別施設修繕内訳という風に平成27年度から書いております。先ほどの話ですと、確認が10年でやっているんですけれども、例えば大広間だけに絞って考えたときに、今までどの程度お金かかっていますか。

○委員長（佐藤孝男）

鍋谷福祉課長。

○福祉課長（鍋谷浩行）

大広間に限定という形での修繕は、その他の部分を足してやっている部分もあるものですから、その部分だけの数字を抜き出すというのは今はできません。

○委員長（佐藤孝男）

平沼委員。

○委員（平沼昌平）

全体的なものに網羅した中で、細部はちょこちょこやっている。ちょこちょこという言葉がいいものなのか、その中で主だったものを平成29年に挙げているんでないのかなと思って、この表を見ていました。

それで、最後のページなんですけれども、平成29年に打たせ湯のろ過装置取替工事をやっているんですが、私、いつも利用させていただいているんですけれども、打たせ湯は今も止まっているんですね。であれば、この工事はなんだったのかなという感じがするんですけれども、分かっている範囲内で教えてくださいたい。

○委員長（佐藤孝男）

鍋谷福祉課長。

○福祉課長（鍋谷浩行）

打たせ湯については、この平成29年度の時点では、まだやっておりました。ただ、私が来た時に源泉の管理というか、源泉の維持管理の部分で打たせ湯はあまり好ましくないというのも報告ではありましたので、去年、私が来たときに源泉の状況というか、温泉の濁り等が結構出たのもありまして、その中で安定させるために打たせ湯自体は止めさせていただいております。

○委員長（佐藤孝男）

平沼委員。

○委員（平沼昌平）

この同じ年度別施設改修費の内訳なんですけれども、平成27年、それから平成30年、この深井戸ポンプの入替えをやっておりますが、確か私の記憶では、この深井戸ポンプの入替えは定期的にやっているものだと思うんですけれども、これは3年に1回という頻度だと思うんですが、それで間違いはない

ですか。

○委員長（佐藤孝男）

鍋谷福祉課長。

○福祉課長（鍋谷浩行）

平沼委員のおっしゃるとおり、3年に1回の入替えをしております。

○委員長（佐藤孝男）

小鹿委員。

○委員（小鹿昭義）

4ページの管理費とありますよね。これはどういうものの管理費なのでしょうか。

○委員長（佐藤孝男）

鍋谷福祉課長。

○福祉課長（鍋谷浩行）

この管理費は、町の方で予算を取った温泉の管理費になりますけれども、平成6年、平成10年とかは直接管理しておりますので、業者への管理委託と、あと保守委託とかあります。あと、直接管理ですから、消耗品等もちちらの方で買ってありますしというのがありますので、燃料費とかそういうのも全部足したのになります。それで、平成29年からは指定管理者の方をお願いしておりますので、この管理費としては指定管理者への指定料と、あと今ここにありますけれども修繕費になります。

○委員長（佐藤孝男）

ほかに。

平野委員。

○委員（平野隆雄）

まず、1ページの中で冒頭に出てくる建物全体の雨漏りは、今現在と言いますか、最近の状況で完全に直っているという状況でしょうか。

○委員長（佐藤孝男）

鍋谷福祉課長。

○福祉課長（鍋谷浩行）

残念ながら、雨漏り自体は止まっていない状態ではあります。ただ、表に出てこないというか、あそこ建物的に雨が降ってすぐ落ちてくるようなものでもないんです。雨が降って、こんな天気の日でもなぜか雨漏りしてくるようなこともありますので、タイミング的には難しいんですけども、完全には止まっておりません。

○委員長（佐藤孝男）

平野委員。

○委員（平野隆雄）

次に、4ページの管理費の中に、もちろん人件費も入っていると思うんですが、この中におそらくさっきの話で、油代、それから電気代がどの程度なものか。結構な数字だと思うんですが、その数字がないので、できたら教えてください。

○委員長（佐藤孝男）

鍋谷福祉課長。

○福祉課長（鍋谷浩行）

工房の方から報告いただいている中で、電気料というか、光熱水費。電気と、あそこは水道も結構使われますけれども、水道、ガス。ガスは給湯室だけなので、そんな量にはなりませんけれども、それで年間ていくと724万873円という形になっております。

○委員長（佐藤孝男）

平野委員。

○委員（平野隆雄）

予期しないガスの話が出たんですけれども、ガスはもっと使っている所があるんでないですか。露天風呂はどうですか。

○委員長（佐藤孝男）

鍋谷福祉課長。

○福祉課長（鍋谷浩行）

露天風呂はボイラーの方で沸かしておりますので、ガスは使っていないです。あそこにあるガスは小さなボンベがあるだけだったと思います。

○委員長（佐藤孝男）

平野委員。

○委員（平野隆雄）

今の管理費の部分はあとで質疑いたしますけれども、同じく4ページの部分で年度別の燃料費の内訳があるんですが、その使用量が年々増えてきているという状況ですよ。使用量ですよ。単価アップは分からないわけではない。だけど、使用量がアップしているということは、入館者はやや下降気味という段階だと思んですが、燃費がアップしているというのはどういうことでしょうか。

○委員長（佐藤孝男）

鍋谷福祉課長。

○福祉課長（鍋谷浩行）

数量がアップしているというのは、ボイラーを今年、去年と取り換えているんですけども、その前は燃焼効率が落ちている状態で長時間焚いてたのもありますので、その関係で使用量は増えていっていると考えております。昨年、一昨年、結構、夜からボイラー焚いたりもしていましたので、それで使用量が増えたのかなとは考えております。

○委員長（佐藤孝男）

平野委員。

○委員（平野隆雄）

そうすれば、その使用量というのは、これから今年、来年辺りになっていくと落ちていくという考え方ですか。

○委員長（佐藤孝男）

鍋谷福祉課長。

○福祉課長（鍋谷浩行）

去年の冬頃から時間の短縮はかけております。それで、今年入ったボイラーも業者の方から聞いている話では、省エネタイプ、高効率になっているということなので、下がるかとは考えておりますけれども、こればかりはちょっとまだ数字が出てきておりませんので、なんとも言えない状況です。

○委員長（佐藤孝男）

ほかに。

溝部委員。

○委員（溝部幸基）

まず1点目、1ページの年度別の施設費の修繕費等の経費。内訳は5ページに出てきているんですけども、この修繕費の部分は指定管理の中にも少額のケースとか含まれているんですが、それらも抜き出して、こういう形になっているということでもいいんですか。

○委員長（佐藤孝男）

鍋谷福祉課長。

○福祉課長（鍋谷浩行）

工房に平成29年から出した時点で30万円ほど少額、10万円を超えない部分に関しては工房の方で直していただくということになっております。その部分については、こちらの方には含まれておりません。

○委員長（佐藤孝男）

溝部委員。

○委員（溝部幸基）

あと、もう建てる方向で検討ということで、先ほど委員の質問で、建築場所はドウデンの跡地をということ考えると。その位置であると、現況の温泉は運営したままの状態の新築するまで対応するというこの考え方に沿って検討するというこの意味でよろしいでしょうか。

○委員長（佐藤孝男）

鍋谷福祉課長。

○福祉課長（鍋谷浩行）

隣の方に建てて、ギリギリまで現施設を運営して、最終的に切り替えるという形が良いのかなという風には考えております。

○委員長（佐藤孝男）

溝部委員。

○委員（溝部幸基）

6ページに源泉揚湯量の特性ということで出ているんですけども、ちょっと分かりづらいので、現況の通常の揚湯の状況ですね。何時間揚湯して、そして何時間休むと。それから、多分、休館日は休むという形で回復するという事なんですけれども、現況の内容を教えてください。

○委員長（佐藤孝男）

鍋谷福祉課長。

○福祉課長（鍋谷浩行）

これは令和2年の9月の数字ですが、通常営業の時は大体日に6回ほど揚湯かけております。時間でいくと400分ですから、大体6時間、7時間までいかない程度汲み上げております。それで、温度なんですけれども、最低で26度程度まで下がりますが、汲み上げ始めて10分後ぐらいには47度ぐらいまでは上がっております。それで、水位なんです、ポンプを動かしていない回復した状態では、地上から下になりますのでマイナス付きますけれども、マイナス65.5程度まで回復しております。それで、1時間汲み上げた後に下がった水位なんですけれども、最低でマイナス157.2が最低ラインにきております。それで、揚湯量なんです、これはちょっとバラつきはあるんですけども、平均すると大体155リットルの分ですから1分間に155リットルほど汲み上げている状態です。

○委員長（佐藤孝男）

溝部委員。

○委員（溝部幸基）

もう一回、6回に分けて対応しているということなんです、その1回当たりの全部で400分ということなんです、その時間は状況を見ながら調整をしているということなのか。1回何十分という形でやっているのか。決めないで状況を見ながら対応するという事なのか。

○委員長（佐藤孝男）

鍋谷福祉課長。

○福祉課長（鍋谷浩行）

井戸のポンプについては、センサーが付いております。それで、時間を決めていたわけではなくて、一度貯湯槽にお湯を受けるんですが、その水位によってポンプが自動的に汲み上げを始めて、一定量に達した時点で汲み上げを終了するという形のポンプになっております。それで、大体1回の汲み上げに1時間ほどかけているという形になります。

○委員長（佐藤孝男）

溝部委員。

○委員（溝部幸基）

この6ページの右側の最後の部分では、令和元年の8月時点では水位・温度・揚湯量は安定しているということなんです、前段説明した令和2年の9月の段階と状況的には変化なく安定しているという考え方の捉え方ですか。

○委員長（佐藤孝男）

鍋谷福祉課長。

○福祉課長（鍋谷浩行）

先ほども説明しましたけれども、平成27年に計器を設置しております。それで、揚湯量等の計測は随時しております。その中で、この挙げた時の数字が、これは令和元年の9月1日から9月4日までのポンプが動いた時の数字ではあるんですけども、挙げさせていただきました。それで、実際、安定している状態で見ると、令和元年度も令和2年度もほぼ同数の温度であり、水位等もほぼ変化なしという形になっておりますので、現状は安定しているという風に考えております。また、平成30年に井戸ポンプを入替

えております。そのときに業者の方から一応報告書的なものが挙がってきます。その中でも安定はしているという風には書いております。

○委員長（佐藤孝男）

溝部委員。

○委員（溝部幸基）

平成24年に源泉実態調査ということで相当詳しく調べておりますよね。議会の方にも、その内容だと思うんですが、平成25年の1月に開催した部分で資料が詳しく出ているんですが、こういった平成24年に実施した調査と同じような内容の調査は、今までその後していないということの内容なんですか。しているとすれば、その状況を教えていただきたいと思います。

○委員長（佐藤孝男）

鍋谷福祉課長。

○福祉課長（鍋谷浩行）

平成24年にやった調査、これはおそらく当時、ヒートポンプを検討されたと思うんですが、その時に併せて、それに耐えられるかということでの調査だったと思います。その後、現在まで業者を入れた調査というのは実施しておりません。

○委員長（佐藤孝男）

溝部委員。

○委員（溝部幸基）

より詳しく意見交換の中で言いますけれども、平均揚湯量が150リットルということの部分では、正常に揚湯量が十分維持できるということの現況把握ということなんでしょうか。

○委員長（佐藤孝男）

鍋谷福祉課長。

○福祉課長（鍋谷浩行）

3年間でだんだん揚湯量の能力は落ちていくものですから、その分、長時間になるんですけれども、今現在、取り替えたばかりでもありますし、毎分150リットル程度であれば、先ほど言ったとおり、一旦止まって水位が回復するのはサイクルとしては安定している状態であると考えております。

○委員長（佐藤孝男）

溝部委員。

○委員（溝部幸基）

そうすると、平成5年、平成24年、令和元年で3つの例を出していますけれども、平均揚湯量が増えているわけですよね。そうすると、揚湯している時間が違うということなんですか。平成5年、平成24年度の揚湯の時間ですね。それはどういう数字になっていますか。

○委員長（佐藤孝男）

鍋谷福祉課長。

○福祉課長（鍋谷浩行）

平成5年、平成24年に関しては、業者が入って調査ということで、実際の揚湯ではなくて、長時間のテストとか、あと短時間テストとかやっていますので、この隣の令和元年度と直で比べられてしまうと、ちょっと違うのかなとは思いますが、ただ、先ほど言ったとおり、平成28年に温泉の利用形態を変えましたので、それまでは頻繁に汲み上げている状態もありました。要は、少ない量をずっと揚げているような状態もあったものですから、平成24年は126リットルという形ですけれども、先ほど言ったとおり、今、1時間にぐっと汲み上げて休ませてというのを繰り返していますので、井戸としては安定するという形になっています。

○委員長（佐藤孝男）

溝部委員。

○委員（溝部幸基）

令和元年度の数値と比較してどうかという検討をするわけですから、同じような現況の中で実態はどうですかという話をしたいわけですよ。ですから、この平成5年度と平成24年度の実質的な時間において、揚湯量の平均はいくらかみたいな数字があるはずだと思うんですが、いかがですか。

○委員長（佐藤孝男）

鍋谷福祉課長。

○福祉課長（鍋谷浩行）

平成27年に計器を設置しております。それ以前は計器が付いていなかったという風に聞いております。なので、日常のそういう利用形態が数値としては出ていないというのが実情であります。

○委員長（佐藤孝男）

溝部委員。

○委員（溝部幸基）

平成27年の分は分かるということでもいいですか。比較検討ということの部分で、平成27年から計器を入れて対応したということであれば、その数値が出てくれば比較検討でどれぐらいの状況になっているかというのが分かるんだと思いますが、いかがですか。

○委員長（佐藤孝男）

鍋谷福祉課長。

○福祉課長（鍋谷浩行）

数値的には持ってきていませんけれども、平成27年に付けた後の数値としてはありますので、それとの比較は可能かなとは考えております。

○委員長（佐藤孝男）

溝部委員。

○委員（溝部幸基）

同じくここの中段の部分で、平成24年の調査段階と比べた場合に、右の中段部分に35センチほどの低下をしているということなのですが、現況の部分でこういう比較をした場合においては、今年の9月と検討した場合にどのぐらいの差があるという風に捉えていますか。

○委員長（佐藤孝男）

鍋谷福祉課長。

○福祉課長（鍋谷浩行）

平成24年の時には35センチほど水位が下がっているよということではあります。それで、実際、平成30年度に常時ポンプが動いていた状態もあった時は、実際、最高戻ったとしてもマイナス83メートル程度までしか戻らなかったというのがありますが、今現在は先ほど言ったとおり、マイナス68、65まで戻っていますので、それで1日休ませた時点ではさらに戻っている状態もありますので、平成27年からそこまで下がっている状態ではないのかなと。ただ、業者の方は、掘ってもう26年経っていますので、絶対的な量としては下がっているねというのは言うておりました。

○委員長（佐藤孝男）

ほかに質疑ありませんか。

小鹿委員。

○委員（小鹿昭義）

管理委託をしていますが、町として、業者とどういう話し合いをしているのでしょうか。

○委員長（佐藤孝男）

鍋谷福祉課長。

○福祉課長（鍋谷浩行）

平成29年度からまちづくり工房の方にお問い合わせということで、これまで町の方で見ていたものを、すべて指定管理の方でやっていただきますということで、委託とか、施設の維持管理すべてをお願いするというので積算をして、その内容で業者と話し合ってお問い合わせしております。

○委員長（佐藤孝男）

小鹿委員。

○委員（小鹿昭義）

業者とは年に何回ぐらい話し合いしているのでしょうか。

○委員長（佐藤孝男）

鍋谷福祉課長。

○福祉課長（鍋谷浩行）

正式に席を設けてという話ではないですけども、工房も実際、役場の中にありますので、何かトラブルがあった時はすぐこちらの方に来ます。それで、12月頃に燃料等の見込みもありますので、その辺で現状は話し合いをしております。だから、3月の委託。これは単年でやりますので、その時と、11月から12月に一度現状というのがあります。

○委員長（佐藤孝男）

溝部委員。

○委員（溝部幸基）

先ほど、打たせ湯を止めた。止めた理由は濁りが要因だということなんですが、現況は、その濁りが通常出ていないということではないですか。

○委員長（佐藤孝男）

鍋谷福祉課長。

○福祉課長（鍋谷浩行）

去年から揚湯管等、配水管というか、排湯管の清掃をかけさせていただきました。それに併せて貯湯槽の方の清掃も去年から1年毎に1回やるようにしましたので、極端な濁りというのは発生しておりません。

○委員長（佐藤孝男）

溝部委員。

○委員（溝部幸基）

通常のそういう発生するための予防のための処置と言いますか、それはどういう風になっていますか。

○委員長（佐藤孝男）

鍋谷福祉課長。

○福祉課長（鍋谷浩行）

予防というか、発生した原因がおそらくは貯湯槽、一度揚げた温泉の成分が温度が下がるに比して、だんだん沈殿するみたいなんです。それが溜まった時点で、それを吸い込んで濁っているというのが現状だという風に認識しておりますので、今は1年に1回清掃して、その溜まるまでにならないようはしておりますが、やはり時間とともに溜まっていくものですから、たまに成分が若干出るということはあります。それを予防というのは、なかなか難しいのかなとは思っています。

○委員長（佐藤孝男）

溝部委員。

○委員（溝部幸基）

あと、貯湯槽と揚湯の関係を話したんですが、その貯湯槽自体は水位が下がった場合に自動的に揚湯するということの解釈でいいんですか。ある一定の線まで下がった場合に回復して、一定の水位まで貯湯するという仕組みになっているということではないですか。

○委員長（佐藤孝男）

鍋谷福祉課長。

○福祉課長（鍋谷浩行）

今、溝部委員おっしゃったとおり、貯湯槽の一定ラインまで水位が下がった時点でポンプが汲み上げを始めるという形で、一定のラインに来たらポンプが止まるというのが基本となっております。

○委員長（佐藤孝男）

溝部委員。

○委員（溝部幸基）

それは完全に自動化で、そのために誰かが付いていなきゃいけないということではないということではないですか。

○委員長（佐藤孝男）

鍋谷福祉課長。

○福祉課長（鍋谷浩行）

その部分については、人は付いていなくても大丈夫です。

○委員長（佐藤孝男）

平野委員。

○委員（平野隆雄）

6ページの部分の先ほども話出ていましたけれども、深井戸水中ポンプの取り替えを3年に1回というパターンで来ていると思うんですが、平成30年に揚湯管取替工事があります。それによって金額がグンと跳ね上がるわけですよね。それで、この揚湯管取替工事というのは、その以前にはありましたか。

○委員長（佐藤孝男）

鍋谷福祉課長。

○福祉課長（鍋谷浩行）

3年毎のデータとしては、この2つぐらいしか持ってきていないものですから、それ以前となると今すぐは答えられないんですが、それは後で調べてみたいと思います。

○委員長（佐藤孝男）

平野委員。

○委員（平野隆雄）

今までの深井戸の水中ポンプと言いますか、それは3年に1回ずつ取り替えているということは分かっていますけれども、この揚湯管取替工事は初めてというか、あまり聞いたことがないので、それは是非、前にあったのかどうなのか、初めてなのか。その辺を調べておいてください。

○委員長（佐藤孝男）

鍋谷福祉課長。

○福祉課長（鍋谷浩行）

その揚湯管とは書いていないんですが、一応平成17年からの修繕のデータがあって、その中には井戸モーターポンプ入替えというのがあるんですけども、金額的に見ると大体300万円から500万円ということになっていますので、その中でおそらく揚湯管の取替えはしていないのかなという風には思いません。

○委員長（佐藤孝男）

平野委員。

○委員（平野隆雄）

普通、ポンプの入替えだけで500万円余りだと思うんですが、1千万円以上になるわけですよね。だから、その取替えというのは何年に1回ぐらいあるのかということを知りたいなと思います。

○委員長（佐藤孝男）

鍋谷福祉課長。

○福祉課長（鍋谷浩行）

今、言ったとおり、平成30年度に1度取替えて、それ以前は調べてみなければならぬんですけども、揚湯管取替というか、3年に1回ですので、その取替えた時に業者の方から、次はこれを取替えた方がいいという報告が来ますので、それでおそらく計画に挙げていく形にはなると考えております。

○委員長（佐藤孝男）

平野委員。

○委員（平野隆雄）

だから、この前はいつ頃だったのか。そういうことが分かれば、何年に1回この金額のやや倍ぐらいの金額が来るという風な、これは金額だけ調べても分かりそうな感じもするんだけどね。

○委員長（佐藤孝男）

暫時休憩いたします。

（休憩 10時55分）

（再開 11時11分）

○委員長（佐藤孝男）

休憩前に引き続き、会議を再開いたします。

鍋谷福祉課長。

○福祉課長（鍋谷浩行）

先ほどの平野委員の質問の揚湯管を取替えるタイミングはどうなんだという話なんですけど、今、調べましたら、一応平成9年に1回揚湯管を取替えております。ちょっと数字が追えなかったもので、申し訳ないです。その後は一度も取替えていなくて、この平成30年に取替えた形になります。それで、一応定期的に取替えるものなのかということは今ちょっと業者の方に聞いたんですけども、サイクルとしては10年で取替える所もありますという話はしていました。ただ、必ず10年で取替えなきゃいけないものではないので、状況を見ながらやる形になるかなと。それで、平成30年には、それまで圧鉄管を使っていたんですけども、それをグラスファイバーの方に変えまして、性能が上がったらしいんです。それで今の10年というのも、またさらに延びているという話はされました。

あと、ちょっと前に戻るんですけども、光熱水費、電気料いくらなのかという話の中で、元年度の方は内訳として、電気料としては416万235円。それで、さっきのガスですね。サウナ室はプロパンを使っておりますけれども、その分を含めてプロパンの方は122万9,043円という形になっております。

○委員長（佐藤孝男）

溝部委員。

○委員（溝部幸基）

揚湯管の温度管理の部分で聞くんですけども、さっきの話で26度から47度とか、高い低いあるんですけど、温泉に入る段階の温度を一定に調整するようになっているのか。その揚湯管の中の温度管理というのは、どういう形で対応しているんですか。

○委員長（佐藤孝男）

鍋谷福祉課長。

○福祉課長（鍋谷浩行）

温度の方なんですけれども、温度計が付いているのが地上部分になります。丁度ポンプで汲み上げて地上部分にあるものですから、最低温度が20何度という形にはなっていると思います。それで、実際に浴槽に入れてやる時点では、高温湯とかは当然ボイラーで沸かして一定の温度まで上げて給湯している形になっております。

○委員長（佐藤孝男）

溝部委員。

○委員（溝部幸基）

ですから、その揚湯管の中の温度変化の状況を把握されているかどうかなんです。それで、基本的に湯舟に入れる段階の温度は多分管理して何度という設定はしていると思うんですけど、それで間違いはないですか。

○委員長（佐藤孝男）

鍋谷福祉課長。

○福祉課長（鍋谷浩行）

揚湯管の中の温度については、今、計器がポンプ室の中にあるんですけども、それを常時監視はしておりません。実際に入れる時の温度で管理されているという状態になっています。

○委員長（佐藤孝男）

溝部委員。

○委員（溝部幸基）

ですから、そこから湯舟に行く段階で温度設定をきちんとして、それに例えば低かったらボイラーが点火して一定の温度で対応するという、その温度はいくらですかということを知っているんです。

○委員長（佐藤孝男）

鳴海町長。

○町長（鳴海清春）

温泉に行ってもらえば分かると思うんですけども、さっき言った貯湯槽については、基本的に我々の温泉はかけ流しでありませんので、ボイラーで温めて浴槽に入れていきますので、当然、事務室内に各浴槽の温度、ボイラーで温めて吐き出している温度はそこで管理するようになっていきますし、また、実質的

な浴槽の温度については、浴槽の側に温度計が付いていますので、大体42度とか43度という形で管理されていますので、あくまでもボイラーを一度通った中での管理がされているという形で理解してもらえればいいのかと思います。

○委員長（佐藤孝男）

溝部委員。

○委員（溝部幸基）

ですから、ボイラーで温度設定をしているということの解釈でいいということですね。

それと、もう1つ、1分間で150リットルということなんですけど、これは時間の関係の部分もあるので、現況の全体の揚湯量の把握というのはされていますか。今年の9月の段階で対応した場合に月とか年間。年間ですればいいんでしょうけど、時間がまちまちなので、ということになると揚湯量全体でどうかという比較の方が分かりやすいのかなと思って、把握しているのであれば教えてください。

○委員長（佐藤孝男）

鍋谷福祉課長。

○福祉課長（鍋谷浩行）

先ほど言った、今年の9月1日からの数字なんですけれども、1日当たりの揚湯量が平日であれば一番多いときに6万6千リットルほど汲み上げています。それで、休館日になって一気に下がるという形になっています。

○委員長（佐藤孝男）

ほかにありませんか。

（「なし」という声あり）

○委員長（佐藤孝男）

質疑なしと認め、質疑を終わります。

次に、説明員との意見交換を行います。

藤山委員。

○委員（藤山大）

令和5年5月に吉岡温泉建設予定とのことですが、現状の温泉について、これから3年後には建てるという方向性になると思うんですが、現状の建物の修繕なり改修の考え方。必要なものは修繕なり改修なりしていかないといけないと思うんですが、いらぬものというわけではないですけれども、その辺の現状の建物の考え方をお伺いします。

○委員長（佐藤孝男）

鳴海町長。

○町長（鳴海清春）

現状は年間6万人近くのお客さんが入っていますし、毎日200人ぐらい入りますので、町民にとって憩いの場でありますので、ここはきちんとあまり休むことなく管理をしていきたいと思っておりますので、そのところの修繕なりはきちんと予算をいただきながら整理をしていく。ただ、先ほど来申しましたように、議会の方の承認をいただいて、これから建て替えるということになれば、あまり過度な改修と言いますか、設備投資をする必要はないんだと思っていますので、営業に支障の出ない範囲の中である程度、修繕をしていくという考え方で私は良いんじゃないかなと思っています。

○委員長（佐藤孝男）

藤山委員。

○委員（藤山大）

それと、先ほど場所の選定で、横の方のドウデンさんの所に建てる予定なんですけど、これは先ほど溝部委員も聞いていましたが、休館せずにそのままやっていく方向ということなんですけれども、例えばですが、まだ分からないですけど、この温泉の切り替えどうこうというものは、その辺はどうなんですか。

○委員長（佐藤孝男）

鳴海町長。

○町長（鳴海清春）

従来、議会の方にお示しした場所がいいのかどうかは、まだ確定しているわけではありません。我々の

今の考え方としては、前任者が提案した中で、多分、場所としては2つ考えられるんですね。温泉から美山の奥の方の町有地、さらにドウデンさんがいた場所ということで、それで貯湯槽の関係ですね。近い所が一番やっぱり管理するには理想でありますので、多分その時も議論して、結果としては手前の方の用地に建てた方が良くないのかなという風に考えて、これからも多分そういう形で進むんだと思いますけれども、その辺も含めて、もう一度さらの状態で議会の方なり、我々として予算を貰って、そういったのも含めて提案できる形が良いのではないのかなと。そして、どっちにしても、今、新築になりますので、改修よりは休む期間は短くはなりますけれども、ただ、当然、切り替え工事というのは伴いますので、一定程度の、色んな温泉の状況を見ている、どうしてもひと月になるのか2週間になるのか、それは分かりませんが、そういった感覚での休みというのは当然生じるのではないのかなと思っています。

○委員長（佐藤孝男）

藤山委員。

○委員（藤山大）

新築になって今の現状から新しいものになる場合に、利用者に本当に迷惑かからないような形でお願いしたいと思います。

○委員長（佐藤孝男）

ほかに。

小鹿委員。

○委員（小鹿昭義）

今、現状は3部制でやっていると言いましたよね。時間を短縮して人件費を抑えながらやるということはできないのでしょうか。

○委員長（佐藤孝男）

鳴海町長。

○町長（鳴海清春）

温泉につきましては、私も平成17年に福祉の総括主査で温泉を担当させていただきました。かなりあの当時は町の財政が厳しいということで、色んな工夫をしながら今の営業時間とかがあるんだと思っています。また、一時営業時間を延ばしたり、やはり利用する人にとって遅い時間が良いという形で、一時9時半まで延ばしたこともありますけれども、そういった形でその時々々の状況。確か朝の時間についても、従前、早い時間を少し遅くしたという、それは少しコンパクトにして経費を抑える。温泉の方では、ある程度、時間の中で利用者は捉えられますので、そういった利用状況を見て、営業時間は設定できるんだと思います。やはりそここのところをお客さん目線で、どうしても我々は費用対効果を少し考え過ぎて、なるべくコンパクトな時間で集中して入っていただく形を考えますけれども、やはり利用する形態というのは色んな町民の方々おりますので、そういった意見を聞きながら、しっかり対応していきたい。基本的には原則の今やられている形が町民に浸透しているのではないかなと思っていますので、基本ベースとしては今の状況を踏襲する形で良いのではないかなと思っています。

○委員長（佐藤孝男）

ほかに。

平沼委員。

○委員（平沼昌平）

何点か先ほど聞きましたけれども、この屋根というか、大広間の雨漏りというのが今まで一番お金もかかってきているんでないのかなとか、お金よりも手間がかかってきているんじゃないかなと思うんです。それで、その都度、工事の内容に修繕という言葉が付いていますよね。修繕という言葉と改修という言葉があるんですけれども、修繕というのは大体雨漏りする前の現状に直す。新築当時のままということではないんですけれども、その目的をきちんと果たすための工事だよ。改修というのは、それよりもグレードアップすることを言うんでないのかなと思うんですけれども、ずっとこの経歴、平成10年に確認して、平成17年に大規模な改修をして、さらに平成30年度には函館の業者も入れてやっている。しかし、現状は全然修繕されていない。例えばそういう業者に対しての仕事に対する監査という仕方は、例えばこれから新しいものを造るにしても、今、公共施設を造るにしても、やはりその辺のルール作りがきちんとしていないと、私は施設全体的なものを考えたときに、どうなのかなと思うんですよね。結局、

一般家庭は仕方がないんで済ませれるかということなんです。だから、その辺からものの考え方が、公共の施設と民間的な考え方とでは誤差が出てきているということですよ。それは痛くも痒くもない町税でやっているからだと思いますよ。もし、これが自分の財布から出てくる仕事であれば、そんなこと言ってもらえないですよ。その辺をきちんとしないと、これから建てる・建てないの議論も進まないと思いますね。今、木造で建てます、自然エネルギーを使って管理コストを抑えますとかっていう前の話だと思うんですけども、まずその辺どう対応していくのか。それから、その対応した業者に対して、まだ漏れてるんだよとか、そういう確認事項ですね。責任問題ですよ。お金払っているわけですから。だから、その辺はどういう流れが今まで来ているのか。そして、今後の対応ということで、できればお聞かせ願いたいと思います。

○委員長（佐藤孝男）

鳴海町長。

○町長（鳴海清春）

私、実際、平成17年に担当して、当時、議会の方に無理を言って、2つほど改修工事をさせていただきました。それは基本的に、まず、入口を入ってすぐの事務室の2階の所ですね。そこが多分、陸屋根みたいな形になっているので、そこが原因ではないかということで、色んな大工さん方のお話を聞いて、片流れにしたら止まるだろうという話です。あと、もう1つは、大広間の所が陸屋根になってございますので、そこをFRPで改造すれば水が止まるだろうということでやらせていただきました。ただ、実際それで止まったかと言いますと、先ほど挨拶の中でも言いましたけれども、なかなか原因がはっきり分からない。施工のミスであれば業者さんの責任ということはあるんだと思いますけれども、我々がお願いした仕事についてはきちんとやっていただいております。ただ、それが即工事の原因として雨漏りが、我々はそれをやると止まるだろうという思いの中で予算をいただいてやってございますけれども、実際は色んな吉岡独特の、平沼委員も分かるとおりに、千軒の方から吹く風がかなり強い中で雨が降ったときに多分ぶつかけが、最終的にはぶつかけが入るのではないのかなということで、私もあの当時も天井裏まで潜りましたけれども、だから、雨が降ってすぐ漏るという状態ではなくて、何日かして伝わって、当時、木村元建設課長とも屋根を潜ったりもしましたけれども、そういった状況の中で、当時グラスウールみたいな構造の中にありましたので、そういった物に滲みたものが大量に落ちてくるのではないのかなと。ただ、ぶつかけですぐ下りてくることもないわけではありません。ただ、色んな状況が複合的に重なって雨漏りがしているということで、なかなかその原因特定に至らない。今回も確かローリング計画の中で函館の業者さんなり、こういった手法をやれば止まるのではないのかなという提案もいただいているのは実はあります。ただ、私も過去にそういう風にやって、なかなか抜本的な解決策が見出せない中で、あれやこれややってももうしょうがないのではないのかなと思いますし、私はやはり一番として、これからの温泉を考えたときに、今の温泉の大きさは将来に向かって少し無駄な部分が多いのではないのかなという気がしてございますので、それを議会の中でも多分、私が来る前に大分喧々諤々議論して行って、新築が良いのではないかという方向性をとりあえず導き出しておりますので、我々としては、その方向性を尊重した中で一步踏み出したいということで今回お諮りしておりますので、今の件については、あくまでも我々として業者さんをお願いした部分については施工がどうこうということでは多分なくて、きっちりした根幹的な原因まで抑えられなくて今に至っているということでもありますので、ご理解いただきたいなと思っています。

○委員長（佐藤孝男）

平沼委員。

○委員（平沼昌平）

その原因が分からないなりに施工業者さんも分からないなりに直しているという、その論法が通用するのかなという感じがするんですよ。まず、決してその業者が良いとか悪いとかの問題でないんですよ。原因が分からないで、じゃあたればでそこを直していると。結果的には直らなかったということですよ。であれば、そこにやっぱり何らかの対応というのが必要になってくると思うんです。これが平成10年から延々と今まで修繕という名の下に、こういう工事が行われているわけですから、やはりいい加減その辺を無駄金だと思わなきゃならないということだと思うんです。この考えがずっと伝わっていくと、どの建物もみんなそういう考え方が主流になってくるのかなと。やっぱり悪い所を突き詰めて、その原因究明に対して、まずきちんと把握する。それにお金をかけていけば、次は修繕なり改修というものがきちん

となされると思うんです。だから、その辺が今、町長の答弁を聞いていると、もう仕方がないんだと。これから建てるから、それには注意していくんだと。悪く聞こえればですよ。私の耳、今日なんか悪いみたいですからあれですけれども、そうじゃないと思うんですよね。根本的にその辺を直していかないと。これは何ものでもそうだと思うんですよ。この5ページの今までやってきたものに対して。これ古くなった物をさらに良くする。例えば今回のサウナ室なんか、すごいですよ。もう本当にみんな喜んでいてと思います。香りは良いし、綺麗だし、本当に利用者目線でやってきているんだなという気がします。一方、もし町長が今おっしゃったように、もう直らないんだというのであれば、そこのエリアは、別に雨が漏っていても利用できないというわけでもないんです。ただ、ゆとらぎ温泉、雨漏り温泉と言われぬように、やっぱり別に使っていないなら、そこを閉じたっていいんじゃないかなと思うんですよ。そうすると、電気も止めて、他の所にも研修室とかあるけどみんな止めているわけですからね。小さい所は利用している部屋もありますけれども、その大広間に関しては、私、行く時間帯が遅い時間帯かもしれませんが、かなり利用頻度は少ないと思うんです。だから、そういう面で、どうせ建てるというものが念頭にあるならば、やっぱり利用者にも将来的にはこういう風に建替えるんだと。だから、今、雨漏りがあってもみなさん納得してくださいよと。先ほど町長言ったように、変に細かいお金をかけるよりも、今度建てる時は良い物を建てますので、今はここを使わないでやっておきますというような利用者に対しての説明は必要でないかなと思うんです。これは管理運営している従業員の方々はかなり、とても一生懸命やっています。その一生懸命やっている仕事の他に、雨が降った何日か後に、綺麗な水が落ちてくるなら分かるんですけど、黒い水が落ちてくるんですね。ですから、やっぱり綺麗に管理運営している従業員の方々はかなり気を使うわけですよ。だから、そういう面で対応していくべきじゃないのかなと思うんです。今の現時点でのこの温泉に関しては、それで、今後の考え方は、一応計画としては令和5年ということになりますけれども、それまでの間にその修繕とか改修とか、そういう工事の概念というもの。福島町のルール作りというのは、これはやっぱりきちんと作っておかないと、私はまた同じ轍を踏むことになるんじゃないのかなと。このように思うんです。その辺できればもう一回お聞きしたいなと思うんです。

○委員長（佐藤孝男）

鳴海町長。

○町長（鳴海清春）

諦めたというか、そういうことではなくて、私も平成17年、先ほど言いましたとおり拝命いただいて、当時の福祉課の方に配属されました。その年にすぐ平成17年に今の屋根の関係と大広間ですか。そのところ。多分、当時としては2千万円ぐらいかけていただきましたので、財政とかなり掛け合って、私も本当にこれで止まるという色んな意見を聞いた中で、これが当時としてはベストの対策だということでやったつもりでありますけれども、その後もなかなか現実的に止まらない。それは偏に、なかなか根本的な原因に至らない。確かに大広間のFRPをやった時も、実際ドレーンから水が漏れているので、そのところをきちんとすれば雨漏りが止まるという業者さんの話もありましたし、そのところでは一定程度の効果はあったんですけれども、まだ全体的な漏れが色んな形で出ている中で今日に至っているという状況でありますので、我々としては、今、平沼委員からご指摘ありましたとおり、なるべく今の現状、ただ、やはり利用していただいている方々が不快に思うようなことについては、しっかりサウナであっても、本来的に私もサウナが好きで、最近ちょっと行き切れていませんけれども、よく行きますけれども、やはり気持ち良い材に浸りながら入っていると気分が良い感じがしますので、そういったお客さんに迷惑をかけるようなものについては、当然、改修に少し予算を費やしていただく。ただ、先ほど来、もし議会の承認なり了解をいただいて、町として新築をして良いという方向性を打ち出せば、そこはもう先が見えてきますので、あまり大きな金をかけないでやっていきたいと思ってございます。ただ、やはり町の公共施設の在り方、常に我々も反省をしなきゃならないのかなと思っているのは、色んな青函トンネル時代から財政再建計画ですか。再建ではありませんけれども、財政推計を基にして、きちんと財政計画を立てながらやってきた中で、どうしても維持管理費に予算を割かないで、本来的に傷んでから手当てをしてきたというのが現実的にあるんだと思うんですね。やはり色んな建物を本来的に、自分の家でもそうですけれども、10年経ったら屋根のペンキを塗るとか、壁を塗るとか、そういったことをメンテナンスとしてやってくれば良かったんでしょうけれども、なかなかその財源を生み出せないところの予算については、少し先延ばしにしてきたと。ただ、今、我々、公共施設の適正な維持管理計画を作らせていただいている

中で、ある程度の大きい施設については、今、再編をしながらきっちり、また、直すものは直すという形の予算もいただきながら、今、計画を立てさせていただきますので、これからなるべくあまり大きな金がかからない前に、きちんとした手当をすることによって、全体的な将来と言いますか、町の持ち出しが減るような形を取っていくことがやはりベストなんだという風に思っていますので、そのところは十分意見を踏まえて、これから適正な管理に努めていきたい。そのように思っています。

○委員長（佐藤孝男）

平沼委員。

○委員（平沼昌平）

今、言ったように、そういう適正な管理をするためには、やはり身近な業者さん。つまり、町内の業者さんが出来る範囲内の、管理しやすいような建物にこれからはシフトしていくべきだなと。このように思うんですね。だから、今、これを将来的に今後の基本的な方向性ということで、2ページに書いていますが、やはり町内の業者さんで管理してくれる、町内の業者さんはもう建物を見たら骨組みまで全部頭の中に入っている。だから、どうなんだこうなんだという形の施設的なものが今後必要になってくるんでないのかなと思うので、その辺も視野に入れて検討されてはどうかと思います。

それで、議会で今後、令和5年度に向けてどう進んで行くかというのはこれからの話でしょうけれども、もしその令和5年度に今このスケジュールに沿った中でやっていくとするならば、やはりきちんと町民の方々、利用者の方々の意見というのは、かなり長期間に亘って聞くべきだと、聞く耳を持つべきだと思うんですね。それで、町の視点としては、当然、人数が多いときの施設づくりをすることではなくて、常に200人前後の、200人ちょっとの方々が常時日常的に使っている範囲内の施設という風になってくるんでしょうけれども、その施設の内容的なものをどの視点に置くかということです。町民が一般的に使うのであれば、それなりの建物の内容になってくるでしょうし、町民プラスやっぱり一時の観光シーズン、それから帰省シーズンになると、ちょっと増えますよね。下手すると倍ぐらいになってしまうという時の来る方々の、入込客じゃないですよ、来る方々の意識をその温泉でどう味わってもらうか。そういうところから辺も考えれば、やはりかなり長期的に意見を集約するというものに時間を費やしていけば良いんじゃないのかなと思うんです。その考え方と、それから、ここに自然エネルギーの活用や自動化と書いている。これはただ書いているだけだよということではないと思うんですよね。やっぱり根拠があったから、ここにも書いていると思うんです。それなりに全部ここに施設整備に対しては書いていると思うんですけれども、先ほども聞きました、この売店というもの。本当にこの言葉を聞いただけで、来るお客さん達はみんな期待すると思いますよ。どういう物売るんだろうとか、今のような朝市みたいな野菜的な物売るんだろうとか、だから、その辺も町民の方々から意見を聞くべきじゃないのかなと。何にしても、やはり利用者なり、それから町民全体の意見を聞いて、やっぱり町の代表的なものなくても200人前後が毎日来るわけですから、その辺を十分検討してもらいたいと思いますので、そのスケジュール的なものを是非、先に立ち上げて聞くべきだなと思うんです。

それで町長、今、大広間はそういう常時開けなくても、例えばイベントの時だけ開ければ私はいいと思うんです。あとはこっちの方の長椅子とか、そういう所に座って寛いでいただいても良いと思うんですけれども、その長椅子の底が抜けているんですよ。だから、やっぱりそういうのが町外から来たお客さんが座った瞬間にびっくりするんですよ。椅子の底が抜けたという感じで。だから、ああいうのはかなり、福祉課長、今までの色んな質疑の答弁で、管理委託している割には随分詳しく調べているなどは思います。もう本当に事細かく我々に答えていらっしゃいますけれども、椅子までは知らないと思うんですよ。是非、1回温泉に来て座ってみてください。板のような硬い椅子もあれば、底が抜けた椅子もあります。その板のような硬い椅子は、底が抜けてコンパネ敷いているんですね。だから、そういうのはやっぱり町の施設として、これで良いんだろうかと思うんですけれども、町長どう思いますか。

○委員長（佐藤孝男）

鳴海町長。

○町長（鳴海清春）

先ほど来、何回も言いますがけれども、私も5年間温泉に通わせていただきました。なるべく私は1週間に1回顔を出して、事務室に座って、当時は加納企画さんでやっていましたので、業者の人に色々な話を聞いて、お客さんの苦情だとか。やはり働いている職員の方も、今回、多分工房さんでも一緒だと思うん

ですけれども、やはり職員が来ると言ってくれるんですよ。だから、なるべく今、課長方はちょっと耳痛いかもしれませんが、現場に本当は足繁く通って、工房さんは工房さんできちんと整理はさせていただいているんでしょうけれども、やはり町職員が全体を管理しているわけでありますので、そういったことを細かいところまで目配せして、常に直せるところは直していくことがお客さんにとって私はベストではないのかなと思っていますので、そこは少し我々も反省しながら、少し工房さんに任せきりのところもありますので、そういった部分も含めて整理をさせていただきたいと思います。

それで、将来に向かってのことでありますけれども、やはり今6万人利用していただいておりますけれども、圧倒的に地元の方がうちの温泉は多いわけであります。そして、お正月、連休、お盆、その期間になると一時期帰省された方、そしてまた、色んな形で町外から来た方。特にサウナについては、松前・白神方面の方が結構好きで来ている方もいらっしゃいますので、ただ、圧倒的にはやはり町民の方が大多数でありますので、まずは町民目線の中で要望なり、そういったことを捉えることが大切ではないのかなど。そういったことで、今回はスケジュールにもありますけれども、あえて構想という形で全体を俯瞰する形で、どういったものを造れるかと。そういう中から、きっちり実施設計なり基本設計に入っていきたいと思っていますので、そういった中で、例えば我々担当した時も少しやらせていただいたのは、アンケート調査をして、温泉についての需要を掘り下げたことがあります。そういった中で、色んなイベントを仕掛けたり、色んな事を自分の中でもやってきた経緯がありますので、構想をやるにあたっては、今、少し時間がありますので、そういったものも1つの手法としてはあるんだなという風に思っています。また、僕らがよくやったのは、やはり毎日のように来る方が大体いらっしゃいますので、まずはそういった人方の声をきちんと聞くということが、自分がやった手法の中で一番手っ取り早かったかなと。やはり365日、開いている時はほとんど来てくれる方が町内に相当数いらっしゃいますので、まずそういった方の意見を聞く。そして、広くは町内会なり色んな方に聞きます。ただ、今の利用の仕方としては、従来やはり大広間を各町内会だったり色んな形の団体が利用する。そしてまた、家族、近所あわせて、以前はやはり大広間で食事をしながら半日ぐらい居るという状況ですけれども、最近の使い方を見ていると、あまり長居する方はいらっしゃらないのかなという傾向がありますので、そういったものもしっかりと工房さんの方に状況も掴まえていただく中で、我々としても、しっかりそういった意向と言いますか、意見を吸い上げて構想に反映して、来た人に喜んでもらえるような温泉を目指していきたいと思っていますので、そういった流れの中でしっかりと整理をさせていただきたいなと思っています。

○委員長（佐藤孝男）

平沼委員。

○委員（平沼昌平）

是非、利用者目線で考えていただきたいなと思います。それと、せっかく新しく建替えるという機会が例えばあるとするならば、やはりここで料金も直した方がいいんじゃないのかなと。私も65歳になりまして、優待券で入れるようになりまして、今まで400円で入っていたものがなんと150円では入れると。かなり心苦しくにっこり笑って入っていますけれども、この150円で入れるということは本当に有り難いことだと思います。けれども、やはりせっかくこういう新しい物を建てるというのであれば、あと50円ぐらい上げても良いんじゃないのかなという気がするんですよ。それは町長が言える言葉でないと思うんです。当然、利用者からそういう声が出ているということも、やはり耳に入れておきたいと思うんです。なぜかと言うと、決してその利用料金に、入湯税がどう使われているか私分かりませんよ。でも、入湯税の金額だけでこの施設を利用させていただいているんだということに、やはり心苦しく思っている方もいると思います。でも、本当に多少なりでも50円上げて200円にするとかしても、私は理解を得られるのかなと。その代わり本当の優待券をまた復活させるとか、そういう料金体系も、これを聞いている町民の方々は余計なこと言いやがってと言われるかもしれません。けれども、私はそういう考え方も、この機会にあってもいいのかなと思うんです。ですから、今のこのままでははっきり言って赤字ですよ。赤字で尚且つ維持管理費の修繕費にこれだけお金をかけて、それで結論が出ないで、尚且つサービスは抑制、今、私が言ったみたたく長椅子は直してくれ、取替えてくれ、もっと言うならば今流行りのテレビじゃないぞという感じの要求を受けるためにも、ある程度、利用者にはそれなりの負担というのを強いてもらった方が私は利用者も気持ち良く利用できるんでないのかなと。このように思うので、是非その料金も検討してみるべきではないのかなと思うんです。どうですか。

○委員長（佐藤孝男）

鳴海町長。

○町長（鳴海清春）

平沼委員おっしゃるとおり、私の口からは多分言えない事かなという風に思っています。ただ、なぜ建替えるかということの1つの概念の中に、今、温泉は6万人の利用があります。その中で、6万人の利用者の割には利用料が減ってきている。それはなぜかと言うと、高齢者、入湯税だけで入る方は比較的増えてきているんですけども、一般の料金を払って入る方が少なくなってきましたので、当然そうすると歳入が減ってくると。そうなりますと町の持ち出しが増えていく。さらにここ何年かは当時、我々がやった頃は多分4千万円ぐらいで収まっていた管理費が5千万円ぐらいに膨らんでいる。それは油の関係もありますし、色んな関係がありますけれども、そういった中で相当数利用者が6万人あるにしても、町の持ち出しというのは相当数金額が大きいという、我々、財政をやった者としては印象としてありますので、なるべく新築した時にその管理費を圧縮できる手法を、多少初期投資がかかっても将来的にかかる運営費を抑えることによって、町の財源というのは多分減ってくるんだと思っていますので、そのところをなるべく圧縮して、できれば今の料金で入っていただくことが私は利用者にとっては良いのではないのかなと。あまり新しくして料金が上がったとなると、大体皆さん苦情ではないですけども、良い感覚を持たないと思いますので、ただ、なるべく我々としては、町から持ち出すお金をどうやったら減らせるかということの視点を一つきっちり持って、温泉の計画には当たっていきたいと思っていますので、そういった中でなんとかあまり、極端に言いますと、現状より町の一般財源の持ち出しが減れば、あえて私は料金を上げる必要はないんだと思っていますので、ここで反対に増えるようであれば、お願いする立場になるのかもしれませんが、できれば我々は今の料金体系に皆さん慣れていきますので、そういったものでできればなという風に思っています。

○委員長（佐藤孝男）

ほかに。

平野委員。

○委員（平野隆雄）

新築の方向で進んでいるようですけども、今日は今後の吉岡温泉の方向性という常任委員会であります。だから、私みたいな意見もあっていいのかなという風に思うところですが、コンパクトで新しい物という方向性みたいですけども、これだけ金をかけてきているわけです。それで、今の温泉を例えばコンパクトな改修という状況もそんなに無理でないなという風に私は感じているんです。だから、新築する段階でいくら、今の物を改修してコンパクトでいらぬものを弾いて浴槽も小さくしてという方法もあると思うんです。そうなった場合にいくらだという風な、まずそこから入っていかないと、なかなかコンパクトで木を使って新築といっても、今までの例ですと、例を挙げて悪いけども、吉岡の総合センター。あれは木でありましたよね。逆に高くなったという状況があったような気がしております。だから、まだ先があるんですから、両方比較してみる方法もあるんでないかなと思いますけれども。

○委員長（佐藤孝男）

鳴海町長。

○町長（鳴海清春）

私の考えとしては、そのところはある程度もう経過しているのかなと。当然、議会の委員会の意見として、今日提案しているような意見を議会として提言をしているわけでありますので、それをまた私の方であらから、その時も相当、私も大分会議録を見させていただきましたし、資料も精査をさせていただきました。その時もかなり喧々諤々やった結果の中で、改修としては厳しいと。平野委員も最近温泉によく行かれていると思いますけれども、浴槽一つとってもあの屋根を見るだけで我々ざわっとするんですけども、あと浴槽自体もかなり、入る人にとっては気分が良いんですよね。高くても良いんですけども、管理する中ではやはりそれによって温度が下がったり、色んな形の中で将来的な経費がかかるという状況がありますので、私の感覚としては、あれを改修するには少し無理があるのかなという気がしますので、先ほど言いましたとおり、確かに木造で建てる高いというのは原理原則であります。当然、今はRCとか、そういう方がコンパクトで安いこともありますけれども、ただ、全体を木造でやるかはまた別の話でありますので、なるべく地元の業者さん、先ほど平沼委員もおっしゃいましたけれども、やはりすぐに手当て

きる、そしてまた、地元の経済効果も色々考えた時には、やはり木である程度ぬくもりのあるものを造った方が、私は将来的に多少耐用年数が短くなっても良いのではないのかなと。ただ、耐用年数についても、私ちょっと木曾に行ったときにびっくりしたのは、意外と我々は木が短いという概念を持っていましたけれども、今は色々な材料が普及して、木でも全然問題ないんだよという話も聞きましたので、今、そういったものもありますので、色々な形でやる形が良いんだと思いますので、私としては議会の意見を尊重して前に進みたいということですので、そこは少しご理解いただきたいなと思っています。

○委員長（佐藤孝男）

暫時休憩いたします。

（休憩 11時57分）

（再開 12時55分）

○委員長（佐藤孝男）

休憩前に引き続き、会議を再開いたします。

意見交換を行います。

平野委員。

○委員（平野隆雄）

方向性ということですから、もう少し話をさせていただきます。前の話ですけれども、建築して、かなり早くから雨漏りがあるわけですよ。そういうことからして、コンクリートの建物だから持っているのかなという風にも思います。それに対してほとんどと言いますか、改修費、修繕費かけてきているわけですよ。だから、資料の1ページに出ていますけれども、平成27年から令和1年までトータルすると4千万円ですよ。4千万円を超える修繕、改修費がかかっているという部分で、毎年みたくかかって、5年平均すると800万円という風な部分ですよ。今年もサウナとか、そういう風なものも令和2年もかかっているわけですよ。これは毎日営業しているから、そういうものがかかっていくと。そして、泉質的に他の施設と違って水道水じゃないわけですよ。温泉水です。うちの場合はあまり色もない、匂いもないけれども、温泉には間違いのないわけで、だから、そういう配管関係はこれから新築しても、そういうもののメンテナンスはかかるということなんですね。だから、新築した場合にはいくらぐらいかかるのか。そして、これを改修した場合にはいくらかかるのか。その辺の比較がまず必要だと思いますよね。まだこの温泉も25年ですか。おそらくRCだとすると、半分ぐらいの耐用年数よりないですよ。だから、そういうことからすると、今朝から議論されている大広間の分とか、色々な必要ない部屋もあるだろうし、そういうものを切り取っていけばコンパクトなものになるだろうと思います。

そして、2ページの中に（1）から（6）まであるんですけども、結局、建替えにあたっては、コンパクトな施設ということを謳いながら、サウナ、露天風呂は形態を変えずに引き続きという、それは小さくなるだろうけれども、そういうものも必要なわけですよ。そうすれば、じゃあ何を今の施設から外すんだと。新築した段階でね。そこまで計画の中にあるかないかは別として、だから、そういうことからして、この改修するときのトータル改修費がどのぐらいかかってどうなのか比較をするものが欲しいと思いますけれども。

○委員長（佐藤孝男）

鳴海町長。

○町長（鳴海清春）

温泉の議論をした時には私はいませんでしたので、詳細については分かりませんが、私も会議録、相当今回の委員会に向かって精査をさせていただきましたし、外にいても話は聞こえてきますので、その時に資料を見させていただくと、大分その時もかなり対比議論はしているんですね。だから、私は既に議会の中では、その議論はもう終わっているんだという考え方を持っていますので、その時も新築して4億円ぐらいの建設費がかかると。当時は確かヒートポンプを1億円ぐらいかける予算を作っていますので、建物としては多分3億円ぐらいの建物の規模でやるのかなと。それで、現在の建物から見ると、大体300平方メートルぐらい少ない面積です。それは取りも直さず、多分、大広間とか、一番最初に造った健康保養センターという名の下に、かなり色々な所を見てきて、その当時も色々な小部屋を造ったり、そうい

った本来使われていないような部屋が相当数あります。多分、それを全部削ぎ落として、この前、議会の方に出してあります図面をちょっと見させていただきますと、休憩スペースぐらいしかほとんど用意をしていない。あと事務室。浴槽については多分そんなに変わらないんだと思います。ただ、前回の温泉は私も、これは記憶が間違っていればあれですけども、確か当初の設計図の中から聞いているのは、真ん中に広い広い上がり場があります。あそこの所にも確か洗い場がもう1つあったはずなんです。そういうものの原型を変えない中で確か削ぎ落としたという記憶がありますし、当初、私の記憶によりますと、町で考えていた建築金額から大分足が出たという記憶もあります。そこで大分見直しをかけたという中で、少し無理があったのかなという気がしております。ただ、やはり今の建物の状況を踏まえて利用形態を見ますと、ここまで大きなものは必要ないのではないかと。やはり原型のものをそのまま改修して直すということになれば、確かにその方法もあるんだと思いますけれども、ただ、今までかけている改修費は長寿命化に向けた改修ではなくて、要はある程度繕うようなパッチワークを貼るような形で建物を延命するための施策かと言えば、そうではなくて、破れた所をつぎはぎしてきた経緯があるので、かけた金については、そんなに将来に向かっての投資ではないのではないのかなという気がしていますので、ここで一旦整理をしないと、やはりあのぐらいの大きな建物をまた改修して維持していくということになると、将来に向かった維持管理費が多分嵩んでくるんだと思いますので、私としては、やっぱりここで一度整理をして、新たな建物をなるべく将来コストのかからない形でどう造っていくかというところにエネルギーを注いだ方が良くないかなと思っていますので、まずは議会としても一応整理が付いているという私の認識もありますので、そこのところは一定程度整理をした中で、我々としては前を向いて進んでいきたいという考えでありますので、よろしくお願ひしたいと思います。

○委員長（佐藤孝男）

平野委員。

○委員（平野隆雄）

今日は建設するか・しないかということでもありませんし、そういう意見があっても良いのではないかとということで述べておりますが、仮に新築を隣にしたとするという状況が、将来3、4年後にあるかもわかりません。そうなった時に、今の施設の建物。これはどうしますか。解体しますか、それとも何かに利用しますか。まだ耐用年数は25年はあると思うんですが、どうでしょうか。

○委員長（佐藤孝男）

鳴海町長。

○町長（鳴海清春）

今の建物については、耐用年数の話をされておりますけれども、私も耐用年数を勘違いしていて、鉄骨であれば45年から50年あるという思いで、私も今の26年程度で直すのはどうかという思いはしていました。ただ、担当の方によく聞きますと、温泉については今31年ですね。そういった形で短いという状況がありますので、それを考えると、決して今、建替えることについては問題ないのではないのかなという風に思っています。それで、今の建物については、やはり景観上、新しい物を建てて、隣にそのままということは、私はよろしくないと思いますので、ある程度、今の起債の関係だとか、補助金の色んな関係を見ますと、将来的に利用が可能であれば壊すことについても財源が生まれるという制度になっていますので、単純に壊すだけであれば町の持ち出しが大きくなりますけれども、将来的には隣の土地と併せて何か計画を立てると言いますか、計画を持つだけで財源は生まれますので、実行するのはまたそれは色んな形であるんだと思いますけれども、前の話を聞くと、そこに高齢者の施設を云々という話が出ていたのも記憶していますが、吉岡地区でそういったものが何か可能かどうかを含めても、ただ単純に更地にするにしても、やはり財源を生むために多少なりともそういう計画を持った中で解体をすることが、私は今の中ではベストな方策ではないのかなと思っています。

○委員長（佐藤孝男）

平野委員。

○委員（平野隆雄）

最後にしますけれども、浴槽が10個あるんですね。町長は水産のスペシャリストと言われた時代もあったと思うんですが、養殖や何かの考え方と言いますか、そういうことは考えられませんか。すぐそこまで海水が来ていますよ。

○委員長（佐藤孝男）

鳴海町長。

○町長（鳴海清春）

我々が水産を担当した時も、温泉の排湯を利用して何か出来ないかということのを少し考えました。ただ、先ほど言いましたとおり、どうしても湯量の関係に限られますので、なかなかその温泉水、要するにヒートポンプ形式の排湯を利用するという事は可能かと思えますけれども、なかなか難しい点があるのではないのかなと思っていますし、あそこの所については海底の湧水が発生してございますので、そういったものに対して今興味を持っている業者さんが、試験的にまた再度やらせてくださいという話もありますので、私は反対にそちらの方が現実性があるのではないのかなと思っています。また、今、ヤマザキさんでやっている所、また、ウニ種苗センター含めて、もう一度あの地区でなんとか湧水を使った養殖ができないのかどうかを、我々としてもそういった業者と連携しながら、また、北大さんだとか色んな水産学部の方もそういった興味を持っていらっしゃると思いますので、そういった方々の知恵をいただきながら、そういったもののお話を今度議会の方でもできるように少し頑張っていきたいと思っています。

○委員長（佐藤孝男）

ほかに。

溝部委員。

○委員（溝部幸基）

しばらく揚湯量の状況の資料提供が議会になかったものですから、前段、課長とのやり取りで、その辺を少し確認したつもりであります。平成24年の段階の資料と照らし合わせて、課長の答弁含めて比較検討しても、やはり温度も若干下がっている状況ですし、揚湯量そのものも総量で大体1日66立米ということであれば、やっぱりそれも下がってきているということの状況にもあります。ただ、大きくは平成6年の段階の町の人口が多分7,800人ぐらいですから、現況はその半分を切っているという背景があるわけで、改めて新しい井戸を掘るといことになると相当また経費も負担もかかるわけで、できるだけ長く現況のものを使うという想定の中で、やはり慎重に揚湯量の状況把握等をしていかなければならないと思っています。その確認だけをしておきたいと思えます。

それと、今、平野委員の方から方向性ということでは、改めてまた逆戻りするような話が出たので、私も隣にいて逆にびっくりしているところなんです。前段の町長が話しているとおりに、今、平野委員が言っているような議論もあった上で、新築の方向でやって良いということではないんですよ。ただ、そういう方向で検討すべき段階でないですかということ、その後の何かの段階で町長と意見交換した部分の中では、やはり新築の段階で早く検討すべきということの中で、若干早めて対応していくという方向性を町長が出してきたんだと思いますので、改めてまた改修とか、そういう議論にはならない状況だと思います。というのは、平成10年に私議長になって、そのあと早い段階で雨漏りの問題があって、議会で実際に屋上に上がって調べた経緯があるんですよ。それで、上がってみてびっくりで、その建設の計画の段階から議会に出てくる資料は平面図と側面図だけだし、上からの平面図なわけで、屋根の形態とか、屋根にどういう形で対応しているかはまったく分からないので、私は上がってみてよかったなと。今後、公共施設を建てる段階においては、やはりその辺も含めて立体の模型か何かで、特に冬期間の雪が多い、雨が多いという対策で検討しなきゃいけないという、非常に参考になったという部分で、もう上に上がってびっくりしたのは、これが本当に豪雪と言わなくても、冬期間、零下になって、屋根に水が溜まったら凍結するというのを前提で造っているとは全然考えられなかったですね。というのは、玄関に入る通路の部分と、それから入ったロビーの上の屋根の部分が、雨が降ったら溝に水が溜まる形になっているわけですよ。オーバーフローして初めて流れていく構造と。これはもう本州の温かい所の設計だという感じで、私はその段階では、完全にこれはもう設計ミスと。それをチェックできなかった町の担当の方も残念だなと。同じような形態が、福島小学校の2階から旧生徒の玄関口の所の屋根の部分が同じような構造であるんですよ。だから、なんでこんな形がチェックできなかったのかなと思いますし、あとは屋根と屋根との繋がりですね。水が中心の方に溜まるような形の状況も見えていまして、これはもう冬期間、雨が溜まってそれが凍結していったら間違いなくそれが膨張するわけですから、そういう形で雨漏りは間違いなくそれが大きな要因だろうということを感じたわけですよ。ですから、それから何年経ったって、先ほど来、議論するように解決しないわけですよ。だから、根本はその屋根の構造も含めた設計そのものにあるんだと思

いますので、もう今の段階でも、これだけ手を尽くして解決できないのであれば、それからもう結構また年数が経ているわけですから、改めて改修という議論にはならないと思っています。それで、改めて対応するとすれば、ここではコンパクトということも書いているんですが、もう1つ足してシンプルという形で設計については、特に屋根の構造とか何かというのは、やはり豪雪とまでいかななくても相当積雪量があるわけですし、雨も降りますから、単純に負担がかからないで流れる・落ちるといった形のものを検討した方がいいと思いますが、その点をお伺いします。

○委員長（佐藤孝男）

鳴海町長。

○町長（鳴海清春）

湯量につきましては、本当に当初の関係も、私たまたま温泉を掘るときに水産におりましたので、当時は水産商工課でございましたので、商工の方であれしています。当時の村田町長が、温泉が出る・出ないで大分悩んで苦労したのを間近で見っていましたので、福島の温泉の場合は大体700メートル辺りから湯量が集まって出てきていると。一般的に1,000メートルぐらい掘れば大体温泉源というのは見つかるんだということで、それでも今、考えると、もうちょっと深掘りしても良かったかなと思いますけれども、ただ、やっぱり温泉を100メートル掘るのに1千万円かかりますので、大体1,000メートルで1億円という単価が単純に、今はまだ単価が上がっているんだと思いますので、改めて掘るとなると相当かかると。ただ、幸いかな先ほど来、議論の中にもありますが、福島の温泉自体はどちらかと言うと無色の中であまり、一時松前さんが茶色い温泉でかなり管を詰まらせて、もう1本掘ったというのを私も記憶していますけれども、そういったのから見ると、業者さんといつも私担当の時も話をさせていただいたのは、福島の温泉は比較的安全に管理されていると言いますか、3年に1回取替えるけど、そこまで酷い詰まりはないということの話を聞かせていただいておりますので、そういったメリットはあるのかなと思っています。ただ、これから新たな温泉をつくるにあたっては、なるべく我々が考えているのは、今、沸かしに相当予算を費やすわけですね。油代だけで2千万円ぐらいかかるわけでありまして、そこをなんとか少しコンパクトにすることによって、多分、前の時も議論されていると思うんですよ。かけ流しとボイラーを共存共栄しながらコストを下げていくということになるんだと思っています。そして、施設の話も溝部委員の方からありました。私も本当に同じような考えで、多分、当時流行りとしてはデザインコンペ、またはプロポーザルという形。そうすると、審査する方はプロではありませんので、やはりどうしても形に拘ったり、絵コンテみたいな形になります。そして、皆さんも記憶に新しいと思うんですけども、国立競技場のコンペと言いますか、当初デザインを採用されたイギリスの建築家ですか。あの絵を見て分かるんですけども、素晴らしい絵でありますけれども、実際じゃあ建てるのにどうなのかとなったときに、まったくスケール感が違うという形で日本の建築家に変更したという形がありますので、確かに優位性なり色んな形はあるんだと思いますけれども、そういったものの弊害というのがありますので、我々としては、やはり少しそういったところを気を付けてやらなければ、形は良く見えますけれども、使い勝手の悪いという施設になりますので、そのところについては前回の反省も踏まえて、我々として、やはり頼む側の思いをしっかりと設計屋さん伝えていけば、私、自分で色んなものを職員時代にもやらせていただきましたけれども、それが通じれば設計屋さんというのはやっぱり優秀でありますので、そういったことに関してはやはり一流でありますから、自分達の思いをしっかりと伝えて、その設計なりに入っていくかという点ではないのかなと思っていますので、そういったことをすることによって、出来たときに良い施設になるんだなという気がしていますので、そのところは十分やっていきたいと思っています。

溝部委員おっしゃるとおり、本当にシンプルなのが一番やっぱり最後は経費的なものとか、使い勝手も考えると良いんだと思います。やはり見た目が良いものはどうしてもちょっと複雑になったり、色んな形で将来お金もかかることになっていきますので、我々はコンパクトでシンプルなものを生み出していければなと思っていますので、前回の発注の仕方も少し私も外から見て疑問な点を抱きながら聞いておりましたので、我々がこれからやるものについては、しっかりとそういったものの反省も踏まえて、なるべく町民、利用者の意見は元よりでありますけれども、議会の方もしっかり相互に意見交換しながら造り上げていくという形が理想だと思っていますので、場面、場面で今日みたいなことの見集約をさせていただきたいと思っていますので、そんな中で、できれば今般のスケジュール感を持ってしっかりとやっていきたいと思っています。まずは第一として、本日ある程度理解をいただいた中で、開発計画の中でまた審議会等もあります

ので、またそういったところで色々な意見をいただきたいなという風に思っているところでもあります。

○委員長（佐藤孝男）

溝部委員。

○委員（溝部幸基）

今、町長の話で気にかけたのは、かけ流しでというような話をしたんですけども、かけ流しの部分も前段の改修、あるいはヒートポンプの関係の中では、当然、議論をして、結論的には揚湯量そのものが、かけ流しでやった場合には耐えられないだろうということで、当時の計画の中では150リットルのものを、できるだけ100リットルで抑えていくと。これは現状とは多分、時間的なものとかの部分で違いがあるので、それで平均150リットルということで、当時からみたらどうなんだろうかと、先ほどの課長とのやり取りの中ではちょっと心配をしたんですけど、これはもう時間的なもので計算すると、全体的な揚湯量そのものは大丈夫だということなんですけれども、かけ流しというのは、そこで熱量と言いますか、その部分の経費節減になるというのではちょっと引かかるとは思いますが、その確認をします。

○委員長（佐藤孝男）

鳴海町長。

○町長（鳴海清春）

溝部委員おっしゃるとおり、全体をかけ流しすれば理想ですけども、当然、油代かかりませんので、ただ、それができるかと言えば無理であります。実際の湯量から考えると、私も設備を担当している業者さんと意見交換させていただいて、理想としてはかけ流しでやることによって熱源の経費が減るんですねという話をした時に、福島の今の状態ではちょっと無理だと。ただ、全部をやろうとすれば無理ですけども、半分を例えばかけ流しにするということは出来るでしょうという結論もいただいていますので、それについても1回調査はしなければ。現状なり基準を見て、多少そういったのと油で沸かす部分を混合でやることによって、今みたいに全部油でもう一度沸かすという状態から脱却できるということで経費を下げるといふ理屈になりますので、それは少し可能だということは聞いています。ただ、それが果たしてどういった形で出来るのかというのは、もう一度やっぱりきちんと構想の段階で設計なり調査をしていたら、多分、お金をかけてしっかりと議論できるような資料を出していただかないと軽々には言えないのかなと。ただ、可能性としては、そういったことができるということの、私が聞いている範ちゅうですけども、ただ、さっき言ったように、じゃあ具体的にこうしようということではなくて、その当時、建築に携わった設備屋さんが、そういった形でできないことはないですよという話も伺っていましたので、我々の希望としては先ほど言いましたとおり、そういうことが理想ですよという話はしているんですけども、現実的には多分、一部かけ流しをして足りない部分を油で補うという形が、それはどういう構造になるか分かりませんが、そういったことも可能ですよという話は、ちょっと聞いていましたので。

○委員長（佐藤孝男）

溝部委員。

○委員（溝部幸基）

前段の部分では、ヒートポンプとセットということなんです。今、町長が言っているのは、ヒートポンプも含めて検討するということとは違うということだと思います。分かりました。

それで、さっき言ったように、今の施設を建てた段階から見ると、人口も半分に減っていると。その使用の状況も高齢者の優待者が半分を超えているという状況が実態ですし、その状況というのは、これから益々その比率が高くなっていくんだと思うんですね。ですから、この今の施設を建てた段階では、町外からとか、観光的な要素もとか、そういう期待もあったと思うんですが、これからはそこは想定をしないで、コンパクト、シンプルに対応して、町民の皆さんが楽しめると言いますか、温泉を使えるということに力点を置いて考えていくべきだなと思うんです。

それと、今の状況を含めて考えると、なかなか利用者が減っている状況の中でも、経常的な経費がそんなに下がっていかないというか、逆に上がり気味の傾向にあるわけですよね。利用者の比率からすると、間違いなく利用者1人当たりの経費というのは上がっている状況なわけですから、そこを如何に抑えていくかという工夫はしていかなきゃないんだと思うんですね。その部分の中でも、やはり人件費の抑制というのは、これはもう一番経常経費の中でのウエイトというのは、さっき言った燃料とかを除いては一番かかる部分なわけですから、そういった部分の検討は是非していただきたいなという風に思うんです。前段

での質疑のやり取りの中でも、大分人手を省いて機械でコントロールできているという部分もあるわけですから、その状況をさらに進めて、例えばお湯を交換するという段階に、何か聞いていると、担当が付いて確認しなきゃいけないということなんですけれども、例えば自宅の風呂にお湯を張る段階においても、今はもうセンサー等で簡単にできる形になっているわけですから、そのために夜間勤務をしなければならないとか、そんなことのないようにしなければならないと思うんです。そういった意味の細かい点の検討は、今の段階から何が改善する余地があるのかみたいなものを是非、指定管理を工房の方をお願いしているわけですから、工房の方の状況も聞きながら、当時、町長は担当の段階で1週間に1回は事務所に入って状況を見ながら利用者の話を聞いていたということですから、是非、鍋谷課長も、もっと私は行きますということなのかもしれないですけども、その部分の状況を見て、これは細かくお客さんだけでなく、工房の職員の皆さんとも色々話を聞いて改善する点がないかどうかをチェックしていただければという風に思いますが、いかがですか。

○委員長（佐藤孝男）

鳴海町長。

○町長（鳴海清春）

貴重なご意見をいただきまして、本当にありがとうございます。温泉については、先ほど来、何度も言いますとおり、平成17年に温泉が出来ました。これは松前町との合併が破綻になって、そのあとに温泉を担当したということになっていますので、当時やはり自立プランを立てて、財政が厳しい中でどうやっていくかということで、私も現場に詰めて色々、主にその時は女性陣というよりは男性陣ですね。要するに、温泉を管理している方々にお話をして、どうしたら今のかかっている経費を圧縮できるかということをはげめてやった記憶があります。それで大体自分の感覚の中で、当時はやはり当直していましたので、その分がまず無駄だろうと。夜中に作業があるんですかと。いや、ないですと。たまたまお湯を沸かし始める時間が朝早いので温泉に泊まっているんですと。じゃあそれは泊まる分にはいいですけど、そこは経費を発生させませんと。あくまでも実働でやらせてくださいと。それで、泊まる分には自分の家に行ったり来たりするのが大儀であれば、そこに泊まってもいいです。我々としては、本来、沸かしに来る時間に出勤をしてもらおうと。それで、その沸かしもかなり早い時間から当初沸かししていたんです。そこで、なぜそんな早い時間から沸かすんですかと。いや、慣習でと。我々は10時にお客さんが入る時にきっちりお湯が42度になっていけば良いと言って、じゃあ何時から沸かし始めたらいいですかと言ったら、その時も1時間、2時間縮まったんですよ。ただ、私が少し残念なのは、今、戻ってきて、その状況がかなり26年経った中で歪みが出ていると。やはり施設で色んな綻びが出ている中で、それが管理をしている人達に迷惑がかかっている。それで、工房さんに委託した時点でも、それが多分、委託料に深く跳ね返っていると。要するに、我々がやった時代の人件費から見ると、かなり複雑に管理している人達がとっかえひっかえやって、夜、夜中ちょっと管理しているとか、そういったのが出てきたということを知ったものから、それであれば自分が持っているイメージとは大分違っているんだなと。それで、このままの状態ですと、そういったところに労力なり金が出ていくのであれば、やはり新しくして、なるべくそういったものを今度、自動管理するなり色んな形で圧縮できることの方が選択肢としては良いのではないのかなということで、自分の就任した時の思いよりは少し早めた方がという感じで今回出させていただいていますので、そういったことで自分も温泉を経験した中で、そこから大分変わっていると言えばそれまでですけども、ただ、そういったものもありますし、副町長も私の後に担当していますので、そういった意味では温泉に関してはそれなりの事を知っているつもりでありますので、そういったものを深めながら、しっかりと現場と向き合いながらやっていければ、私は良い温泉が出来るのではないのかなと思っていますので、ただ、あとはやはり自分達が自己満足する考えではなくて、町民なり議会にしっかりとそれを見ていただいて、我々の考えが合っているのかどうかということを議論する必要が前回の反省から見てもあるんだと思っていますので、そういったところの手順をしっかりとこれから順序立てて、多少そこで時間を費やしても私は良いのではないかと思いますので、そういった形でやっていきたいなという風に思っています。

○委員長（佐藤孝男）

溝部委員。

○委員（溝部幸基）

昨日でしたかね、テレビでスマート健診とか、太陽光発電を使ったごみ箱。ファストフードで飲み物なんか買くと、プラスチックの物が出てきますよね。それは結構かさばるわけですよ。かさばって1回毎に溢れると、その状況を見ながら回収に回らなきゃいけないものを、一定のところまできたら圧縮をかけて、それをまた入れられるような形にする。それで6回ぐらい対応した段階で、その状況がちゃんと、電話回線なのか無線回線なのか担当のところまで分かるようにして、そこで回収すると。効率的には90パーセントぐらい効率が上がるという話をしています、併せて、今の水道の検針がありますよね。それも全部そういう形でデータが事務所の方に出ると。いちいち検針に回らなくてもいいような人件費の節減の話がありました。今、温泉で問題になっている朝早く出てこなければとかなんかではなくて、電話回線か何かで時間になったらお湯が入る、それで一定の段階になったら止まるぐらいのことは簡単にできるんでないかなという風に思いますので、それらを含めて人件費削減と言いますか、合理化含めて、工房の方の負担が、色んな町長言っているように、古くなったために設備も含めてということでの負担が結構かかっているような話を聞きますので、繰り返しますけれども、今の状況をしっかり把握して、新築に向けての改善点も設計に反映されるように検討をしていただきたいと思います。

それと、午前中の議論にもありましたけれども、私は、建替える段階において、その状況も、これからのことも含めて、町民にきちんと説明をするということが大事だと思うんです。その上で、利用時間を夜の方の希望によって、だんだん遅くまでみたい話を聞きますので、極論を言いますけれども、例えばそれを夜の分を1時間早くして、朝の分をちょっと遅くするというだけでも、私は色んな経常経費の削減には、さっき言ったようにお湯の入る時間帯も短縮になりますし、その担当者の部分も人件費削減になりますので、そういった細かい点も是非、現況把握して、経常経費削減に向けての考え方をどこかの部分で議会に提案されることをお願いして終わりたいと思います。

○委員長（佐藤孝男）

鳴海町長。

○町長（鳴海清春）

色んな形で多分、今は日進月歩で進んでいますので、そういったものを取り入れていきたいなと思っています。確かに溝部委員おっしゃるとおり、職員にも負荷がかかっているところは、やはり当時オートメーションというか、機械で全部管理できるようにはなっていたはずなんです、それが古くなることによって、どうしても誤差が生じるということで、私も当時よく温泉に行って担当者と話した時は、機械どおりいかないんだと。そして、どうしても手で上げ下げをして調整しなきゃいけないということが結構発生する。それがかなりこの4、5年の間に頻繁に状態が悪くなっていて、多分、温泉の方々に迷惑をかけているのかなと思うんですね。それが当然また負荷となってきたので、その分の経費が発生して委託料が高くなっているんでないのかなと思っています。そしてまさに、営業形態につきましても、ある程度、受付をしている段階で利用状況というのは全部掴まえていますので、私も温泉によく、最近は行き切れていませんけれども、行ってよく様子を伺う中で、一番温泉が混み始めるのは4時ぐらい、夕食前なんですよ。あとは朝一番で本当に好きな人方は高齢者の方が10時に入ってきます。ただ、11時、昼近くになると空いてきて、やっぱり3時、4時から、また少し夕ご飯前が多分洗い場も含めて一番混むのかなと。それで、夜の部というのは大体もう固定客が来ていて、そんなに8時、7時過ぎで混むということはないわけでありまして、前回も9時から9時半に営業を延ばしてほしいという方が、ドウデンとか、そういった方々が少し工事した中で作業が終わってから入りたいという方があって、一時9時半ぐらいまで延ばしたんですけども、結果的にデータを取ってみると、じゃあそんなに居たかというとなかなか、大体9時でいいところ1人、2人、3人というのはありましたけれども、そういった形で多分また変更かけて今現在に至っているのかなと思っています。それについては、やっぱり利用者が利用しやすいのが一番です、ただ、そこに当然コストが嵩むことがあれば、どこかで線引きというのは必要でありますので、そういったものをしっかり、現状の形態が多分、今、利用されている方々には慣れていると思いますので、それを踏襲する形でいけば、しっかりいただきながら改善できるところは、せっかく新しくなって中身が新しくならないと利用する側としては気持ち良いものになりませんので、是非皆さんの合意をいただきながら、少し議会の意見に沿った形で我々として進みたいと思っていますので、ご理解いただきたいなと思っています。

○委員長（佐藤孝男）

ほかにありますか。

(「なし」という声あり)

○委員長(佐藤孝男)

それでは、以上で、調査事件6 今後の吉岡温泉の方向性についての質疑及び説明員との意見交換を終わります。

暫時休憩いたします。

(休憩 13時39分)

(再開 13時40分)

○委員長(佐藤孝男)

休憩前に引き続き、会議を再開いたします。

それでは、調査事件6 今後の吉岡温泉の方向性についての本委員会の意見の取りまとめを行います。

暫時休憩いたします。

(休憩 13時40分)

(再開 13時50分)

○委員長(佐藤孝男)

休憩前に引き続き、会議を再開いたします。

それでは、調査事件6 今後の吉岡温泉の方向性について、休憩中の論点・争点の整理を基に、問題点やその対応策などを討議・意見交換を行いました。

お諮りいたします。

ただいま議題となっております、調査事件6 今後の吉岡温泉の方向性についてに関する本委員会の意見の取りまとめ及びその調整については、委員長に一任願いたいと思いますが、ご異議ございませんか。

(「異議なし」という声あり)

○委員長(佐藤孝男)

ご異議なしと認め、調査事件6 今後の吉岡温泉の方向性についてに関する本委員会の意見の取りまとめ及びその調整は、委員長に一任されました。

次に、3のその他について、何かございませんか。

(「なし」という声あり)

○委員長(佐藤孝男)

ないようですので、以上で、本日の案件をすべて終了いたしました。

これをもちまして経済福祉常任委員会を閉会いたします。

どうもご苦勞様でした。

(閉会 13時52分)

福島町議会会議条例第157条の規定により署名する。

経済福祉常任委員会委員長 佐藤孝男